

オンラインで学ぶ海外日本語学習者の特性を探る ―「JFにほんごeラーニング みなと」登録者を対象に―

中尾有岐・三宅直子（国際交流基金関西国際センター）

先行研究

◆海外日本語学習者数：142か国・地域 約385万人

2018年度日本語教育機関調査（以下、「2018年度機関調査」）（国際交流基金2020）

⇒**独学で学ぶ学習者は含まれていないが**、
機関外で学ぶ海外日本語学習者は多く存在する

（国際交流基金・電通2016，末松2017ほか）



オンラインで学ぶ海外日本語学習者の特性の一端を探るために、

- ・調査対象の**国・地域の範囲**や**学習者数**をさらに広げる
- ・複数の**国・地域**の学習者を比較する



日本語学習プラットフォーム「JFにほんごeラーニング みなと」
199の国・地域の約27万人（2021年11月現在）

- ・登録者データ
 - ・2021年度のアンケート（任意）回答
- を分析

「にほんごeラーニング みなと」とは



地理的・時間的に制約のある海外の学習者・学習者
予備軍を主な対象とした日本語学習プラットフォーム
世界中の誰でも日本語コースが受講可能

（<https://minato-jf.jp/>）

公開年：2016年7月

言語：日本語，英語（2016年7月～）

スペイン語・インドネシア語・中国語・タイ語・ベトナム語（2018年1月～）

登録：無料

コース受講：一部を除き無料

日本語コース（2021年度は約180コースが開講）

- ・「自習コース」学習者が自分のペースで自学自習
- ・「教師サポート付きコース」ライブレッスンや課題添削などの教師のサポート付

コース内の解説言語：主に日・英。コースにより，スペイン語，インドネシア語など
これまで14の言語で開講。

学習カテゴリ：総合，読む，書く，話す，聞く，語彙，文法，文化・社会，
かな，漢字

内容：総合，多読，観光，ビジネス，書道などバラエティに富む。

レベル：JF日本語教育スタンダードA1,A2のコースを多く提供

「みなと」で学ぶ海外日本語学習者

国・地域数

	調査対象の学習者全体数	国・地域数
2018年度機関調査	3,851,774人	142
「みなと」 2018年度(2019年 3月末)	62,474人	180
2021年度(2021年11月末)	274,553人	199

- ・**教育機関で学ぶ学習者が確認されなかった国・地域**にも学習者が存在
- ・その数は**3年間でさらに増加**

※「みなと」のみで登録者（学習者）が確認された**国・地域**

・機関調査で一度も確認なし

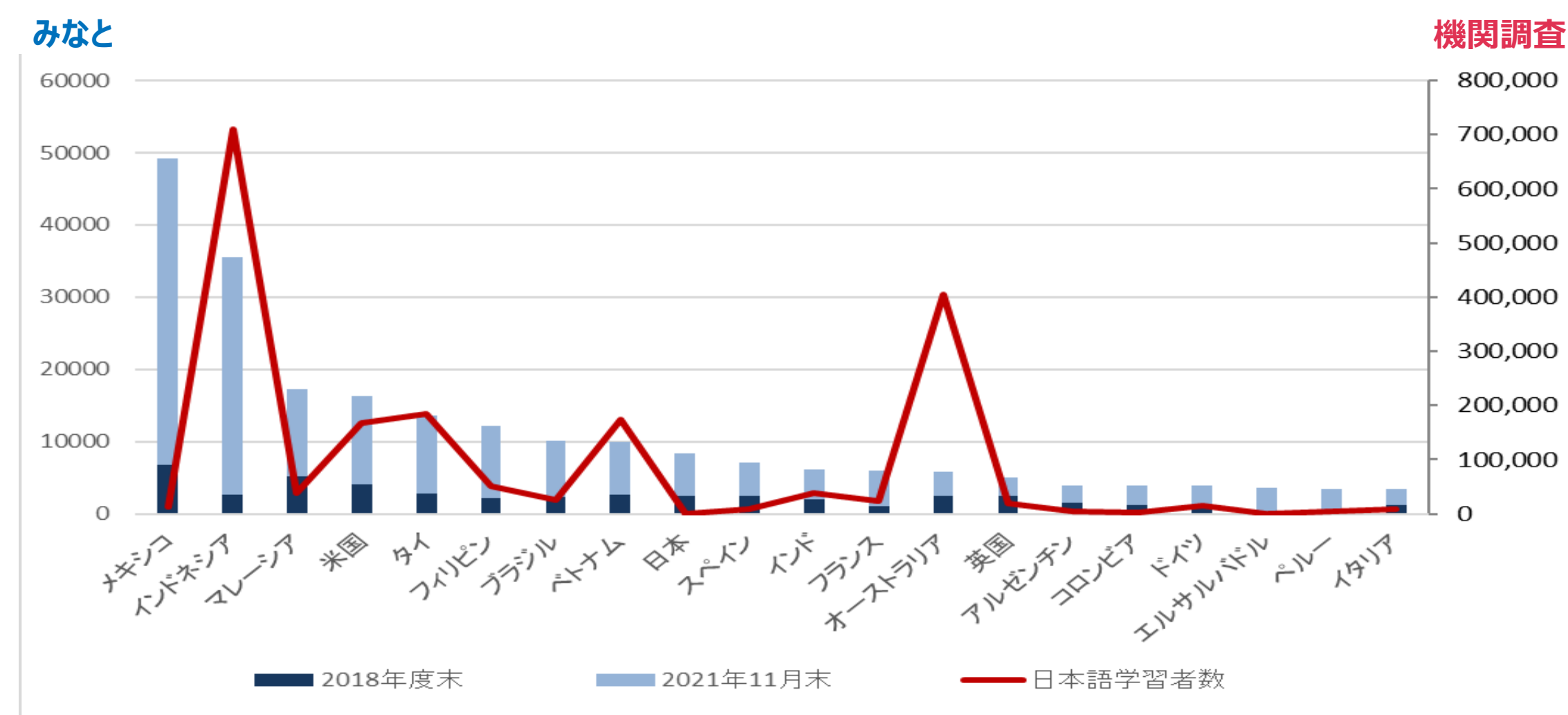
南アフリカ，ナイジェリアなどのアフリカ30国，グレナダ，バハマなどの中米7カ国など

・2015年度機関調査では確認あり，2018年度機関調査では確認なし

シリア，アフガニスタンといった政情不安な地域

国・地域別の学習者数

「みなと」登録者数と2018年度機関調査の学習者数



「みなと」と機関では学習者の分布が異なる

学習者が多い国 ・2018年度機関調査：1.中国 2.インドネシア 3.韓国 4.オーストラリア 5.タイ
・「みなと」登録者：1.メキシコ 2.インドネシア 3.マレーシア 4.米国 5.タイ

➤インドネシア，タイなど東南アジア→「機関」・「みなと」ともに多い

➤中国，韓国，オーストラリア→「機関」多く，「みなと」少ない

小学生，中学生よりも，大学生，社会人のほうがオンライン学習のニーズが高いとも考えられる。

➤メキシコ，その他中南米地域→「機関」少なく，「みなと」多い

機関で学べる機会が少ない国・地域でも日本語学習への興味関心・ニーズが高い地域がある。

国・地域別のオンラインで学ぶ学習者の特徴

・対象国：「みなと」登録者の多い国 中米の**メキシコ**，東南アジアの**インドネシア**，西欧の**スペイン**。3カ国の比較を通して各国の学習者の特性を探る。

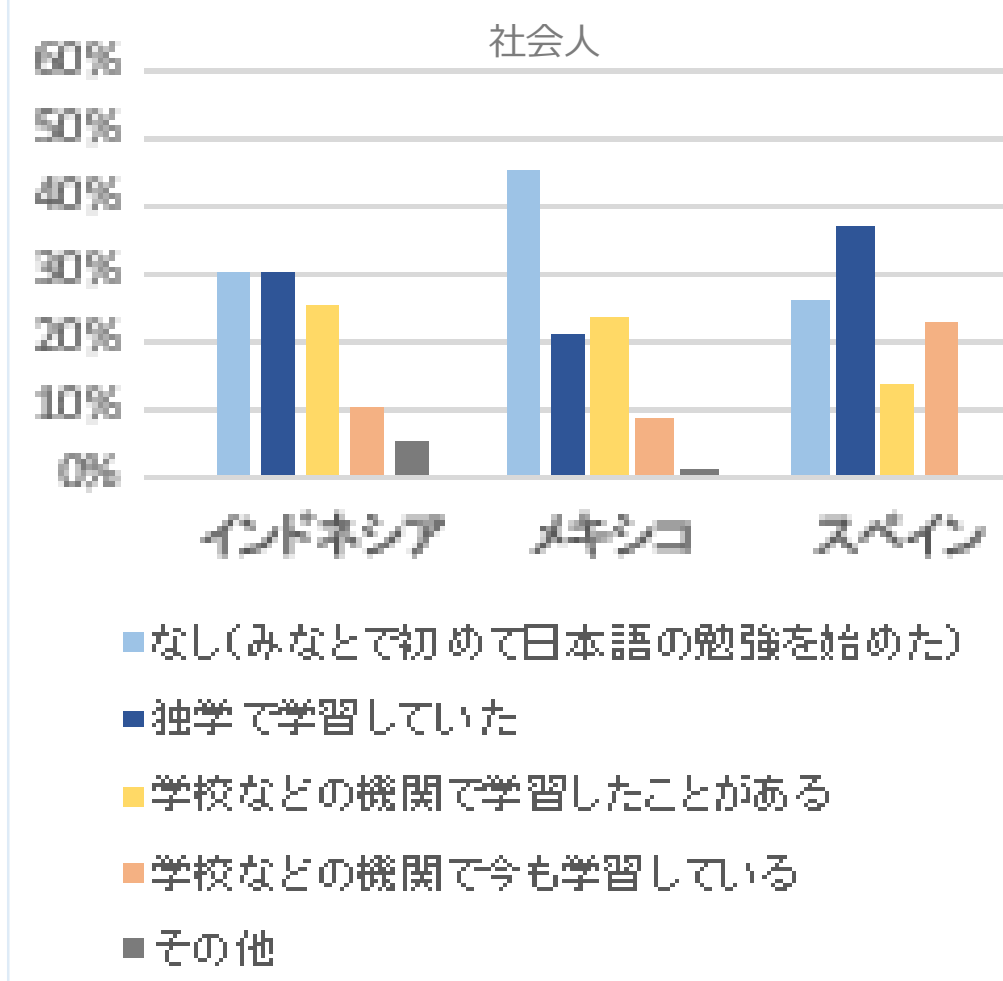
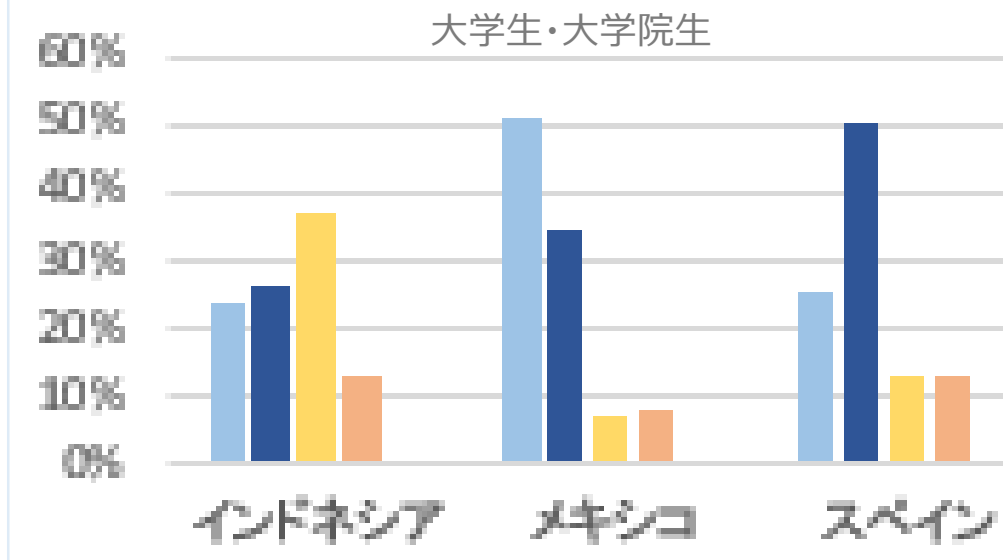
・分析対象：3カ国の2021年度（2021年11月末時点）の登録者データ（91,748人分），2021年度の「みなと」上で実施したアンケート回答（556件）

「みなと」利用者の属性（登録者データ）

2081年度 機関調査	初等	中等	高等	学校教育 以外	合計 (学習者数順位)
インドネシア	7,148人 (1%)	650,215人 (92%)	28,799人 (4%)	23,317人 (3%)	709,479人(2位)
メキシコ	1,081人 (8%)	1,115人 (8%)	3,307人 (24%)	8,170人 (60%)	13,673人(23位)
スペイン	5人 (0.05%)	36人 (0.4%)	1,743人 (20%)	6,711人 (79%)	8,495人(26位)

みなと (2021年)	小学生	中学生 高校生	大学・ 大学院生	社会人	合計 (学習者数順位)
インドネシア	363人 (1%)	9152人 (26%)	10886人 (31%)	5018人 (14%)	35454人(2位)
メキシコ	741人 (1%)	5116人 (10%)	17540人 (36%)	16249人 (33%)	49145人(1位)
スペイン	77人 (1%)	571人 (8%)	1791人 (25%)	2676人 (37%)	7148人(10位)

「みなと」登録者の学習歴（登録者データ）



割合が高い項目

インドネシア

・**大学生・大学院生**「機関で勉強経験あり」

・**社会人**「なし」「独学で学習していた」

→中等教育での日本語学習経験者の学びなおし

→初めての学習や独学の補完として利用の可能性

メキシコ

・**いずれも「なし」**

→日本語教育への関心が高まってきている一方で，
教師が不足(2018年度機関調査)。学びたくても
学べる場所がなく，オンラインを選択した可能性

スペイン

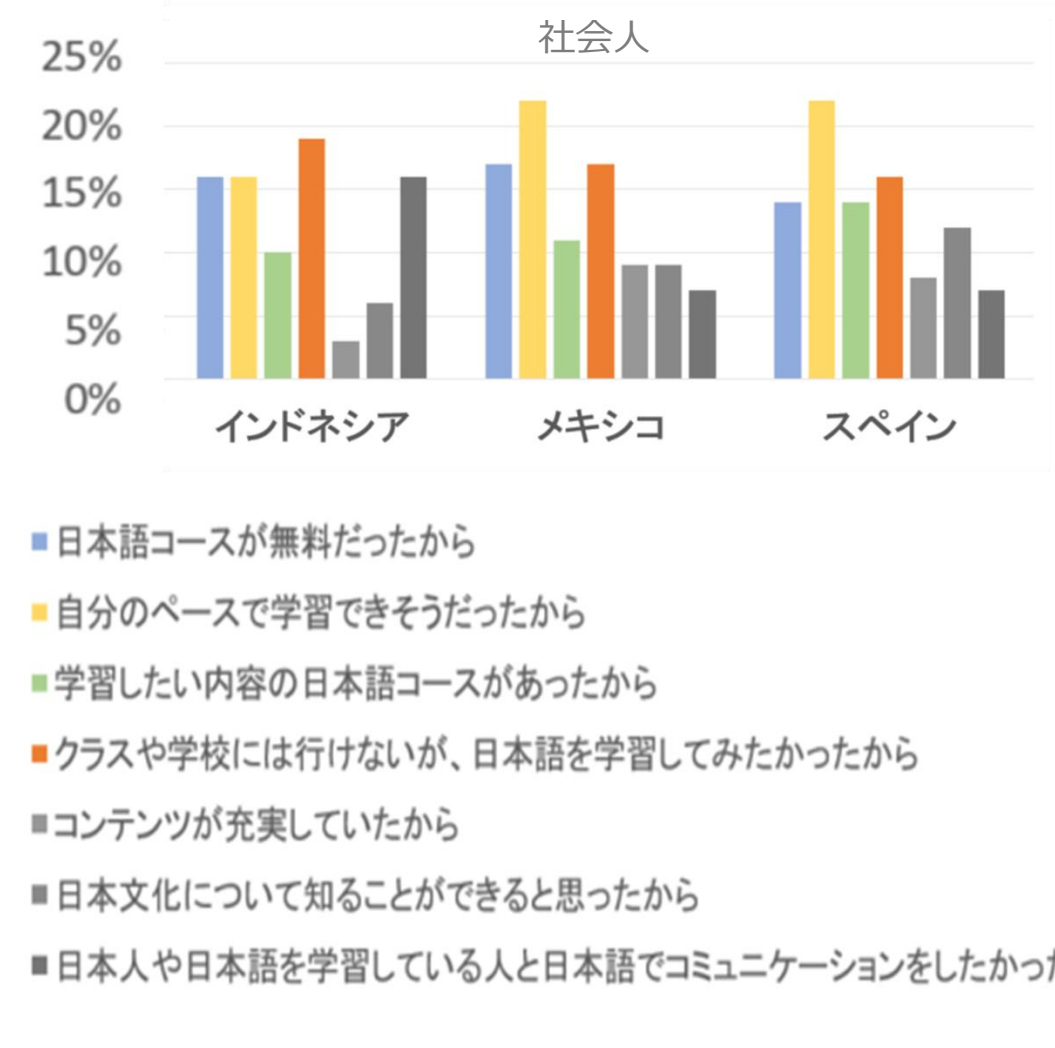
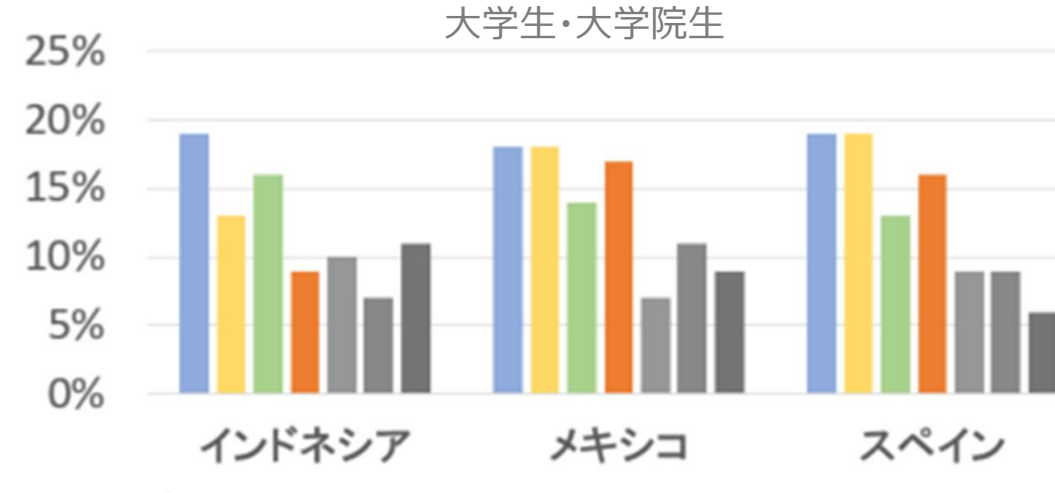
・**いずれも「独学で学習していた」**

→独学の補完として利用の可能性

・**社会人**「学校などの機関で今も学習」

→機関での学びの予習，復習に利用の可能性

「みなと」の利用目的（アンケート）



3か国共通で割合の高い項目

・**大学生・大学院生**「**無料**」

・**社会人**「**自分のペースで学習**」

→無料であること，自分のペースで学習で
きることにオンライン学習の利点を感じている。

・「**学習したい内容の日本語コース**」

→オンライン学習を選択する際に，学びたい
コースがあるかどうかが重視されている。

・「**クラスや学校には行けないが，日本語を学習してみたかった**」

→機関に通えない人でも，「みなと」により日
本語学習を始め，続ける場を得ている。

まとめと今後の課題

まとめ：・オンライン学習は教育機関がリーチできなかった層にも日本語学習の機会を届け，**海外日本語学習者の裾野を広げている**

・3カ国の比較から，同じプラットフォームの利用者であっても**教育機関での日本語教育の実施状況，社会情勢など各国の状況によって，利用者層や利用目的に異なりがある**

⇒オンラインによる学習者も含め総括的に海外の日本語学習者を見ることは，海外における日本語教育の更なる発展や，学習者のニーズにより合致した教育機会の提供に役立つと思われる。

今後の課題：比較対象を増やし，アンケートの自由記述の分析も進め，海外のさまざまな国・地域のオンラインで学ぶ学習者の特性をさらに探っていきたい。

参考文献

- (1) 伊藤秀明・石井容子・武田素子・山下悠貴乃（2016）「日本語学習者のネット利用状況と学習サイトへの期待-海外11拠点の調査結果から-」『国際交流基金日本語教育紀要』12,97-104
- (2) 鶴飼香奈子（2021）「メキシコにおける「JFにほんごeラーニング みなと」普及への取り組みと成果」『国際交流基金日本語教育紀要』17,156-167
- (3) 国際交流基金（2020）『海外の日本語教育の現状 2018年度日本語教育機関調査より』(<<https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/result/survey18.html>>）（2022年1月4日）
- (4) 国際交流基金・電通（2016）「台湾・香港・韓国 日本語学習者調査結果」< <https://goo.gl/7QwIF5> > （2022年3月18日）
- (5) 末松大貴（2017）「『新しい日本語学習者』の実態と学習コミュニティに対する評価—FacebookグループThe 日本語 Learning Community」での調査結果から—」『言語文化教育研究』15,172-193
- (6) 鈴木智美・清水由貴子・中村彰・渋谷博子（2020）「海外の大学における日本語学習者のツール使用状況の解明—ICT時代における教師の教育設計リテラシーの向上を目指して—」『日本語・日本学研究』10,国際日本研究センター，23-48